

科目名	近代日本社会変動論 特殊研究	担当者	コミネ 小峰 カズオ 和夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	日本の社会はいま大きな変化の中で揺れ動いている。現状も将来もつかみにくくなり国民のあいだに不安が広がっている。行き過ぎた商業主義や利益追求主義にとらわれない社会科学の見地に立った日本社会の研究の必要性が高まっている。日本社会の現状と将来を、巨視的・歴史的变化のなかでとらえる社会科学の知見を身に付け、社会の安定と発展に資することのできる人材を育てることが本科目の目的である。		
到達目標	そのために、まず 1970 年代以降生じた世界経済の大きな転換とそれが我が国に与えた経済的・政治的影響についての認識を深める。これにより「世界の中の日本」という意識を明確にする。さらに、日本の社会が大きな歴史的転換点に立ち、長期的移行期に入りつつあること、具体的には人口減少のもとで「経済成長神話」が終焉した時代に入ったという現実を直視する。これにより客観的考察に基づく「等身大の日本社会像」を持てるようにする。全体を通じては急速な社会変動の時代に主体的に向き合うことのできる洞察力を身につけていく。		
学修方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 学習に関わる質問等があれば積極的に担当教員に尋ねるようにする。 ② 指定の教材をしっかりと読み、意欲的に新たな知見を獲得し、著者の主張を的確につかむ努力をすることにより、他者の意見を理解する能力を高める。 ③ リポートの課題の主旨を正確に理解し、見当外れのリポートにならないよう心掛ける。 ④ リポートが読書感想文的な主観的論述のみで終わらないよう気をつける。 ⑤ 上記④を確かなものにする一つの方法として、教材以外の文献にも目を通すようにする。 ⑥ リポート執筆にあたっては、形式（章立てなど）や構成を整えて話の流れや論旨を明確にし、同時に文章や字句等に誤りが無いよう注意を払う。 ⑦ 提出した草稿に対する教員からの添削結果をよく読み、それに積極的に対応することによって、学習内容を一層充実させ、より良いリポートに仕上げていくようにする。 		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者確定後に担当教師から出される学習上の注意点等の指示をよく理解する。 ② 草稿の提出：前期は 7 月末までに、後期は 11 月末までに、それぞれ最低 1 回は草稿を提出し、教員からの添削を受ける。 ③ 草稿の手直し：前期は 8 月末、後期は 12 月末までを目途に、添削結果に対応した改善を草稿に加える。 ④ 前期後期それぞれ所定の期限までに正式の原稿を提出する。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材の理解度、リポートの構成、文章力と語彙力、参考文献等の利用具合、全体の論旨の明快度等をみる。
	平常評価	20%	草稿の提出状況、添削結果への対応状況、担当講師とのコミュニケーション等を通じての履修態度、熱心度をみる。
履修者への要望	博士前期課程入学以来の学習の成果を生かして、形式および内容とも、できれば「小論文」に近いようなリポートに仕上げるのが望ましい。前期または後期、いずれか一つのリポートだけでもよいので、そのような意欲的な目標を立ててほしい。客観性を備えつつ、明確な主張のあるリポートを作成していただきたい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 高原基彰 教材名： 『現代日本の転機：「自由」と「安定」のジレンマ』（NHK 出版，2009 年） ISBN:978-4-14-091140-2 1,070 円+税
	本書は、1970 年代から現在に至る日本の社会変動の過程を論点整理的に描いたものである。キーワードは「安定」と「自由」である。この半世紀近く日本社会は、一種の身分制的秩序を備えた「安定」への志向と、それを批判し既成秩序の解体を望む「自由」への志向との間を揺れ動いてきた。この切り口から現代史を丁寧に追っている。主な内容は以下のようである。 ○左右の反近代主義のねじれ ○「七三年の転機」とは何か ○「超安定社会」の起源 ○多幸感の背後で進んだ変化 ○日本型新自由主義の展開 ○閉塞感の先へ
参考図書	伊藤誠『日本経済はなぜ衰退したのか』（平凡社，2013 年） ISBN:978-4-582-85678-1 780 円+税 橋本健二『「格差」の戦後史：増補版』（河出書房新社，2013 年） ISBN:978-4-309-624466-2 1500 円+税 平川克美『喪失の戦後史』（東洋経済新報社，2016 年） ISBN:978-4-492-06201-2 1500 円+税
履修上のポイント	(1)教材全体をきちんと読み通すこと。 (2)日本経済の現在の立ち位置を歴史的な脈において体系的に整理して理解するように努めること。
レポート課題 1	著者が論じている「七三年の転機」とはどういうものか。その要点をまとめ、何かコメントすべきところがあれば自由に述べなさい。 留意点 ：1970 年代に始まる現代世界の変質を理解するようにしてほしい。
レポート課題 2	教材の第二章～第四章のうちから一つを選び、その内容を要約して述べたうえで、自分なりの批評を展開しなさい。 留意点 ：論点をよく押さえてレポートしてほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 平川克美 教材名： 移行期的混乱：経済成長神話の終わり（筑摩書房，2013 年） ISBN978-4-480-43025-0 760 円+税
	本書は、歴史上かつて経験したことのない人口減少時代の到来という現実を正面に据えて、第二次世界大戦の敗北から今日に至るまでの日本人の経済モラル、労働勤労観、生活観の移り変わりを追ったものである。総人口の減少という不可避的な現実を立論の前提に置いて、日本の社会経済の現状と将来を大胆に考察した本書は、現代日本の社会変動を考える上で時宜にかなった一書である。以下はその目次である。 第 1 章 百年単位の時間軸で時代の転換期を読み解く 第 2 章 「義」のために働いた日本人 第 3 章 消費の時代の幕開け 第 4 章 金銭一元的な価値観への収斂 第 5 章 移行期的混乱 終章 未来を語るときの方法について 付録 「右肩下がり時代」の労働哲学
参考図書	武田晴人『仕事と日本人』（ちくま書房，2008 年） ISBN:978-4-480-06406-6 900 円+税 野村総合研究所『誰が日本の労働力を支えるのか』（東洋経済新報社，2017 年） ISBN:978-4-492-76231-8 1600 円+税 筒井淳也『仕事と家族』（岩波書店，2015 年） ISBN-978-4-12-102322-3 780 円+税 岩井克人『会社はこれからどうなるのか』（平凡社，2009 年） 950 円+税
履修上のポイント	(1)教材全体をきちんと読み通すこと。 (2)「自分史」と重ねるようにして教材を読み、自己の経験とも照らし合わせながらレポートを作成するのが望ましい。
レポート課題 1	教材では「戦後日本人の労働意識の変化」をどのようにとらえているか。そのあらましをまとめ、最後にそれについて論評しなさい。 留意点 ：自らの経験や見聞を生かしたレポートにしてほしい。
レポート課題 2	教材の著者の言う「日本社会の移行期的混乱」とはどのようなものか。そのあらましをまとめ、最後にそれについて論評しなさい。 留意点 ：日本社会のトータルな変化を展望してほしい。